

「成し遂げられた」

ヨハネによる福音書

第19章 28節～37節

説教 岡村 恒 牧師

「成し遂げられた」そう言うと主イエスは頭を垂れ、息を引き取られました(30節)。主イエス・キリストの死によっていったい何が成し遂げられたのか、聖書全体が証をするのもこの一点です。

あの日「成し遂げられた」と主イエス・キリストが宣言されたのは何か。私たちは、この宣言が自分のためになされた宣言であることを知ります。あの日、あの場所で、私の救いは成し遂げられた、そう信じる者は、教会でその信仰を告白し、洗礼を受け、新しい命を手に入れます。

神は「光あれ」と言葉を発し、そして光があり、天地が、そして私たちが創られました(創世記 1章3節)。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。」(創世記 1章28節)と人間を祝福し、人が神の民として、その祝福のうちに生きるようにと律法を与えて導かれました。しかし、その律法によっては、私たちの誰一人、真の祝福を受けることができないことが明らかになりました。新しい救いの契約を用意してくださった神は、この契約を実現し、約束を成し遂げるために主イエス・キリストを地上に送り、十字架にかけてくださいました。

主イエス・キリストが十字架にかけられたのは、ユダヤの人々にとって最も大事な過ぎ越しの祭りのさ中でした。ユダヤ人の先祖がエジプトの奴隷だった時、モーセの指示に従って人々は子羊を殺し、ヒソブの枝でその地を玄関に塗りました。その晩、神の滅びが街を襲ったとき、犠牲の子羊の血が塗られた家だけはその災いが過ぎ越しました。この出来事を記念して、神が私たちに救い出すために何をしてくださったかを思い起こし、神をほめたたえる祭りです。

聖書の律法には、過越の子羊を屠るとき、「その骨を折ってはならない」(出エジプト記 12章46節)と明確に記されています。通常、十字架による処刑の際、しばしば死を早めるために受刑者の足の骨が折られました。しかし主イエスはすでに死んでおられたので、足の骨を折る必要はなかったと、聖書は証します。過越の子羊と同じように、骨が折られることなく、その血が流され、神の裁きが過ぎ越すための犠牲の捧げものとして主イエス・キリストは十字架の上で死なれました。

最後の晩餐の席上、主イエスは杯を手にとって「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」(マルコによる福音書 14章24節)と言われました。その主イエスの血が、ここで流されました。あの子羊の血と同じように、私たちの罪をあがない、私たちを死と滅びから救い出すために主イエスの血が流されたのです。

代々の教会は、洗礼を《消されざる、罪の赦しのしるし》と呼んできました。取り消されたり反復されたりしない、一度きりの水による洗いが洗礼によって起こります。主イエス・キリストがあ十字架の上で私に代わって裁きを受け、死んでくださった。そう信じる者が洗礼を受けます。水によって洗い清められ、新しい命を持つものとして、主イエス・キリストの復活に結び合わされて生きるようになります。

かつて主イエスは、「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」と言われました(7章37節～38節)これは、「御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。」(11章39節)

先週、この聖堂で一人の姉妹の葬儀を執り行いました。私たちの教会では、葬儀の式次第に多くの場合三つの日付を記します。誕生と、洗礼を受けた日付と、地上の旅を終えた日付です。神によって地上の旅を歩み始め、キリストと一緒に死んで葬られ、新しい命を生きて、やがて目覚めるための眠りについたその日付です。

主イエス・キリストはあ十字架の上で宣言をして本当に死なれました。「成し遂げられた」はっきりそう言い切って。私たちは日曜日ごとに集まり、食卓を囲み、主イエス・キリストの死を記念し、宣べ伝えます。日曜日の朝、主が墓から引き上げられ、今も生きておられることを証します。主が成し遂げてくださったこと、神の救いのわざ、それは私たち一人ひとりの死と復活の約束です。その救いの約束が十字架の上で成し遂げられました。私たちはこの約束の成就を感謝しつつ、神をほめたたえましょう。

(記 説教要約奉仕者)